

農林水産大臣賞受賞

～住民自らによる暮らしやすい地域づくりと、地域の資産・文化の継承～

じょうなんちくちいきづくりきょうぎかい
受賞者 **上南地区地域づくり協議会**

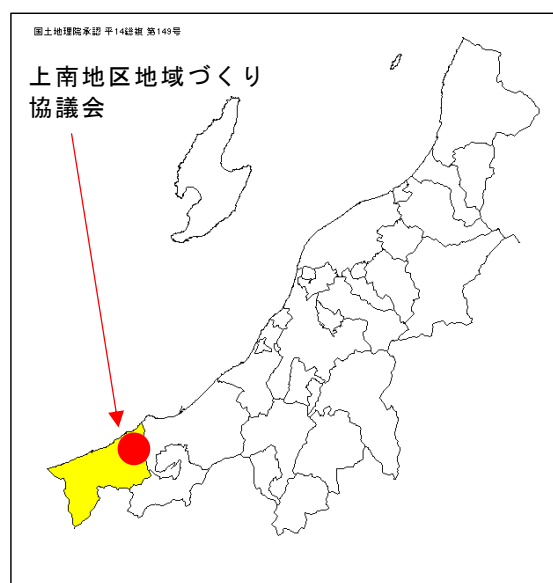
にいがたけんいといがわし
(新潟県糸魚川市)

■ 地域の沿革と概要

上南地区（以下、「本地区」という。）が存在する新潟県糸魚川市は、南北に広がる新潟県の西南端に位置し、県内最高峰の小蓮華山しょうれんげさんをはじめとする山々に囲まれ、さらには日本海に面した断崖の多い海岸線、日本列島を横断する「フォッサマグナ」の地質条件等の緑豊かな自然に恵まれている。

本地区は、糸魚川市の中心地から北東能生川沿いの銚ヶ岳ほこがたけと権現岳ごんげんだけのふもとに広がる、冬期間は積雪が1.5mを超える豪雪地帯で、新潟県における典型的な山間部の地域である。

第1図 位置図



■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

本地区は、高齢化と人口減少により地域住民の活力が低下し、各集落単位で実施していた伝統行事の開催もままならない中、地域の交流・活動拠点が失われていくなど、今後の展望が見えない状況にあった。

こうしたことから、本地区では全世帯で構成する「上南地区地域づくり協議会」を平成24年に設立し、「上南地区地域づくりプラン」を策定した。協議会の下には生活部会と産業部会を設置し、両部会に実務担当チームを編成し「役割と責任」を持たせた地域づくりを行っている。

第1表 地区の概要

事項	内容	
地区の規模	集落の集合体	
地区の性格	地縁的な集団等	
農家率 (内訳)		43.3%
	総世帯数	307戸
	総農家数	133戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家	23戸
	1種兼業農家	12戸
	2種兼業農家	49戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積	15,049ha
	耕地面積	121ha
	田	115ha
	畑	6ha
	耕地率	0.8%
	農家一戸当たり耕地面積	0.9ha

H27 農林業センサス等

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

地域の活力に危機感を持つ中、糸魚川市から「地域主体・行政支援型」のモデル地域として施策活用の提案があったことがきっかけとなり、平成24年3月より「地域住民による地域活性化」をテーマとした地区内11集落（現、10集落）での懇談会の開催や、全世帯を対象としたアンケート調査の実施などから、本地区の地域づくりが始まる。

平成24年7月に地区住民の全世帯で構成する「上南地区地域づくり協議会」を設立する。協議会の中に生活部会（暮らしに関すること）と産業部会（産業に関すること）を設け（先述）、両面から地域の課題を把握した。両部会の20回以上に及ぶ検討により、本地区の今後の展望を描く「上南地区地域づくりプラン（計画期間：平成25年度～29年度）」の策定に至る。

また、「上南地区の住民数が増加、文化資産等の継承」を地域づくりの最終目標として、「地域住民の参画」と「資源の有効活用」をキーワードに策定し、一度に全ての事を実行できないことから、「緊急性／重要性」「みんなでできること」「すぐできること」というテーマで絞り込みを行い、地域づくりに関するコンセプトと「スローガン」を設定した。



写真1 協議会（全体会議）の様子

【上南地区地域づくりプランのコンセプト】

〔最終目標〕上南地区の住民が増えて、代々受け継がれていく。

○地域住民自らが参画し、暮らしやすい地域づくり

○地域資源を活用し住民生活の向上

スローガン ～住民自らによる暮らしやすい地域づくりと、地域の資産・文化の継承～

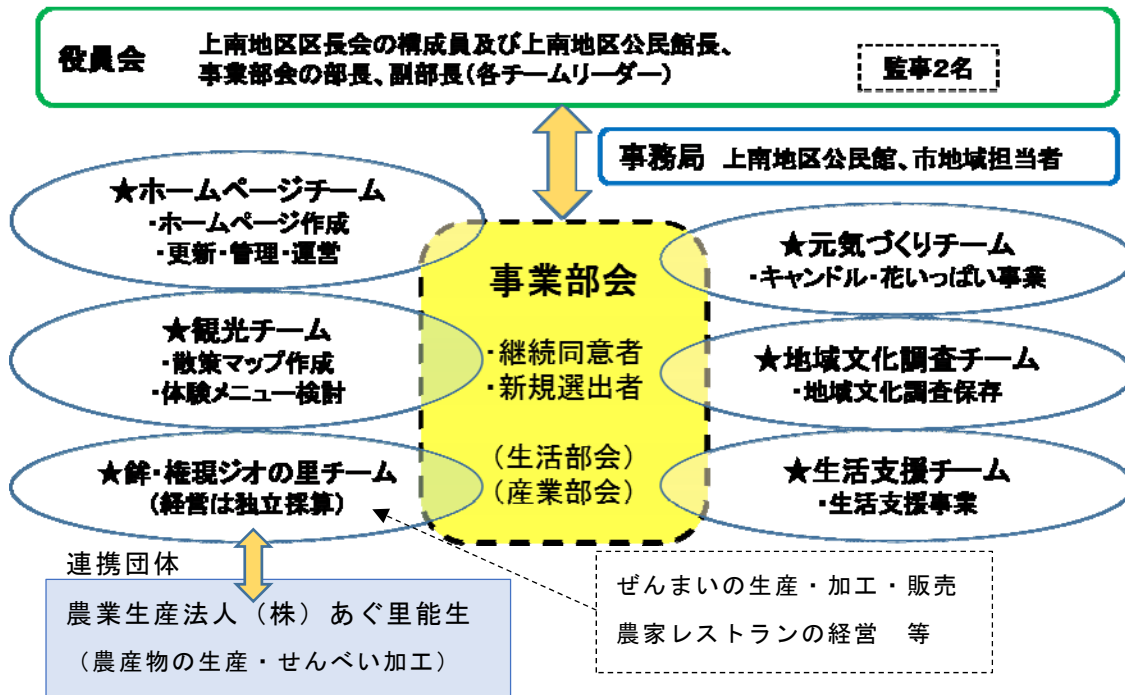
(2) むらづくりの推進体制

協議会は、地区内10集落の全世帯が参画し、役員は「会長1名、副会長1名、幹事9名、監事2名、事務局2名、事業部長1名」の16名で構成し、副会長・幹事は各集落区長から選出されている。

地域づくりのプランに掲げている目標を達成するため、事業部会（生活部会と産業部会）の下部組織として、各事業の実務担当チームを編成している。具体的には、事務局を上南地区公民館に置き、生活部会に「生活支援チーム(12名)」「元気づくりチーム(13名)」「地域文化調査チーム(2名)」「ホームページチーム(5名)」

産業部会に「観光チーム(6名)」「^{ほこ}銚・^{ごんげん}権現ジオの里チーム(6名)」の計6チーム(44名)により、地域づくりの各事業に取り組んでいる。

第2図 むらづくりの推進体制図



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

協議会の各事業には、地区内の方であれば老若男女を問わず、誰でも参加できるのが特徴である。

協議会の実務担当の6チームは、役割を明確化し、各リーダーから新しいアイデアをとり入れている。

平成25年から始めた冬の行事「ふれ愛キャンドル祭り」は地域内外からの参加がある。また、子供たちを対象にした「楽習会」、「あそぼまいか(ロケットづくり等)」、「家庭教育学級(高齢者との竹馬づくり)」の他、高齢者を対象にした「なんでも屋さん事業」(「ワンコイン(100円)サービス」 「みんなの喫茶店(カフェ)」 「地域サロン」等は好評で、全ての住民が遠慮なく参加・利用できる環境となっている。これらの事業の展開にあたり、協議会では6チームの進捗状況を把握するために全体会議を毎月開催し、情報共有を行っている。



写真2 なんでも屋さん (包丁研ぎ)

2. 農業生産面における特徴

(1) 農業生産、流通面の取組状況

産業部会の実行部隊として設立した（株）銚・権現ジオの里（「銚・権現ジオの里チーム」）では、地域の特産品である「ぜんまい」の生産・販売等を一気に引き受けている。近年、遊休化してきたぜんまいのほ場を再生し、栽培管理が可能な状態にして地権者へ引き渡す取組も行っている。

高齢化等により管理ができないほ場は、作業管理を受託することで、生産拡大につながっている。

さらに、地域で収穫したぜんまいは、希望する生産者から全量買い取りを行い、乾燥・調整した後に販売・流通している。

また、（株）銚・権現ジオの里が経営する農家レストラン「キッチンひだまり」では、地域農産物等（そば、自然薯、山菜、野菜）を活用した料理の提供や農産物直売のほか、笹寿司等の総菜をJAひすいの直売所や地元温泉施設でも販売している。

レストランの直近3年間の平均入場者数は約8,900人であり、売上は2,508万円（平成29年度）となっている。



写真3 ぜんまいの分別作業

写真4・5 レストラン「農家キッチンひだまり」とスタッフ

地域農業としては、地区内の農業生産法人（株）あぐ里能生（以下、「（株）あぐ里能生」という。）が、高齢化と担い手不足から、農業が継続できなくなった農家の受け皿として活動しながら、（株）銚・権現ジオの里と連携し、協議会の取組を支援している。

なお、あぐ里能生の代表取締役は、（株）銚・権現ジオの里の役員（副会長）を務めており、協議会や事業の適切な運営に向けて助言している。農家レストランの敷地内に隣接した場所に、自社の「せんべい工場兼販売所」を設置し、双方の売上向上（相乗効果）が期待されている。



写真6 せんべい工場兼販売所

(2) 生産力の向上、生産の組織化、所得の向上への寄与

「銚・権現ジオの里チーム」がぜんまい部門を担当したことにより、ぜんまい管理作業の受託システムが構築され、生産性が安定し売上の向上につながっている。

近年、ぜんまい加工設備（加工所）を設置したことで、これまで個人で実施していた乾燥・調製作業等についても、少量での引き受けが可能となり、小規模な生産者でも出荷が可能となり、取引量が増加したことで所得の向上に寄与している。

また、「銚・権現ジオの里チーム」のレストラン「農家キッチンひだまり」の設立により、地域の特産品であるぜんまい及び山菜類・野菜類を「料理の食材」として提供することで、付加価値のある製造・販売が行われている。

なお、ぜんまいの加工等作業（農家男性9名）及び農家レストランの運営（農家女性11名）に係る雇用が生まれ、約1,200万円の賃金が支払われ、地区に還元されている。



写真7 農家レストランの定食（笹寿司セット）

3. 生活・環境整備面における特徴

（1）生活・環境整備面の取組状況

「元気づくりチーム」では、「地域活性化」と「地域で困っていること」を手助けする「地域応援」をテーマに活動を展開している。「花いっぱい運動」は、地域各家庭に花苗を斡旋する他、集落の花壇（ふれ愛花壇）の整備をしている。また、集落区長からの「困っている」依頼により用水路の草刈り等も実施している。



写真8 ふれ愛花壇の共同作業

地域活性化のために実施している「ふれ愛キャンドル祭」「ふれ愛運動会」「ふれ愛夏祭り」は全チームと協議するとともに公民館とも連携し、地区全体を巻き込んだ行事となっている。

「観光チーム」では、「上南ええとこマップ」（写真9）を毎年発行しているほか、観光資源である「物出の湧き水」「白滝」「花立峠」等に案内看板を設置している。また、お盆前と年末に主な2集落を拠点にイルミネーションを設置し、帰省客等へのイメージアップ・PRを行っている。



写真9 上南地区ええとこマップ

「地域文化調査チーム」では、地域資源であるますがたやま枅形山の散策路の草刈りや案内看板等を設置している。また、地域伝統文化に関わりの深い名所等を上南ええとこマップに反映させており、散策ツアーを企画している。

「ホームページチーム」では、協議会のホームページを開設し、各種イベント・観光・特産品等を情報発信するほか、地区内活動を紹介している。

(2) 生活条件の改善・整備、コミュニティ活動の強化、都市住民との交流等への寄与状況

ア 生活条件の改善・整備

「生活支援チーム」では、高齢者世帯などのために「なんでも屋さん」として、大好評の「包丁研ぎ」のほかにも、「電球の球替え」、「障子張り替え」、「冬期間のゴミ出し」等、なんでもワゴンコイン（100円）で要望を受けている。

また、県除雪ボランティア組織「スコップ」を受け入れ、高齢者住宅の屋根雪の除雪の支援を行うとともにボランティアとの交流を深めている。



写真10 高齢者住宅の除雪

これらの取組により、高齢者にとってはきつい作業でも気軽に頼めることが可能となり、一人暮らし高齢者でも安心して暮らせるようになった。

イ コミュニティ活動の強化

「生活支援チーム」では、高齢者の孤立防止支援策として、毎週（火曜日）午前中に上南地区公民館内で無料のコーヒー等を提供して懇談する「みんなの喫茶店（カフェ）」を開設している。

この取組は、高齢者にとっては他人の家だと行きづらいが公民館だと気軽に行けるという理由で、孤立防止支援対策としての効果があり。参加状況は1回あたりの平均で、夏が10人前後、冬が5人前後となっている。

また、インターンシップ研修生や移住者が集落の方と知り合い、地域情報を得る場としても利活用されている。

ウ 都市と農村の交流

「農家キッチンひだまり」は、平成27年から「糸魚川市定期観光バス」の周遊ルート（昼食場所）に指定されたことにより、糸魚川市に観光にくる方が上南地区にも訪れるようになった。設立後5年目（平成30年7月）には来場者が4万人を突破した。

また、冬場の雪を活用した「ふれ愛キャンドル祭」も5年目を迎え、糸魚川市の冬の2大イベントに発展・定着し、市外からも来訪するようになった。

さらに、東洋大学との連携により、「移住体験モニターツアー」の企画から実行までの間、大学生が定期的に訪れるよう



写真11 ふれ愛キャンドル

になり、ふれ愛花壇などの共同作業にも参加するようになった。

協議会では、これまでの5カ年間の活動を振り返り、住民アンケートを実施したところ、全体的に好感度の評価であった。また、上南地区地域づくりプランの次期対策（平成30年度以降）について行動を開始しており、これまでの事業の継続と、新たな事業の展開が見込まれるところである。